

パネルディスカッション

## じんもんこんの新たな役割 ～知の創成を目指す文理融合のこれから～

パネリスト：八村広三郎（立命館大学）、三浦武（秋田大学）、松村敦（筑波大学）、後藤真（国立歴史民俗博物館）

コーディネータ＆司会：阪田真己子（同志社大学）

1999年に第1回「人文科学とコンピュータシンポジウム～過去・現在・未来（じんもんこん1999）」が開催されてから16年になります。この間、コンピュータに象徴される情報技術がめまぐるしく進歩する中で、じんもんこんは、人文科学と情報学の議論、協働、コラボレーションを目的として活動し、文理融合型研究会の嚆矢として知られるようになりました。今日では、人文情報学、文化情報学、デジタルヒューマニティーズ等をキーワードとした学術団体、教育・研究組織も多く見られるようになり、文理融合ももはや珍しいものではなくなると同時に、その概念は文と理という対立の枠組みを超えた学融合・学際研究へと広がりを見せ、新たな知の創成を目指す活動に発展しています。このような状況は、じんもんこんの進めてきたミッションの成果と言えますが、その一方で、現在の学融合・学際研究が、必ずしも十分な成功をおさめているとは言えません。個々の成果および研究領域に対する正統な評価、領域を超えるマインドを持った人材の育成、教育・研究組織や体制への継続的なサポート、隣接領域学会・研究会との交流や差別化あるいは協力体制など、様々な問題が顕在化しています。さらに、根本的な問題として、新たな知の創成と言えるような成果をあげることもまだまだというのが現状です。このような問題を解決するために、今まさに、じんもんこんには新しい役割が求められています。そこで、本パネルディスカッションでは、学際研究や文理融合型プロジェクトで活躍してこられた4名のパネリストにご登壇いただき、じんもんこんの今後の方向性と発展について議論し、次なるミッションは何かを考える機会にしたいと思います。



八村広三郎（立命館大学）

1971年 京都大学・工学部・電気工学第二学科卒。1976年 同・大学院工学研究科・博士課程単位取得退学。1978年 国立民族学博物館・第五研究部・助手。1983年 京都大学・情報処理教育センター・助教授。1990年 同・工学部・助教授。1994年 立命館大学・理工学部・教授。2004年 同・情報理工学部・教授。2012～2014年 同・学部長、2014年 同・特任教授。工学博士。マルチメディア情報処理、無形文化のデジタルアーカイブなどの研究に従事。著書「計算機科学の基礎」「デジタルアーカイブの新展開」（共著）など。



三浦武（秋田大学）

1991年3月岩手大学大学院工学研究科修士課程修了。1993年3月北海道大学大学院工学研究科博士課程中退。同年4月秋田大学鉱山学部電気電子工学科助手。現在、同大学大学院工学資源学研究科電気電子工学専攻准教授。2005～2007年度における地域情報通信技術振興研究開発（総務省）の研究プロジェクトへの参加以降、4つの文理融合型研究プロジェクトに参加。秋田大学プロジェクト研究所「民俗芸能情報技術研究所」所長（2014～2015年度）。博士（工学）。



松村敦（筑波大学）

1992年東北大学理学部物理学科卒。1997年同大学院理学研究科博士課程修了。博士（理学）。現在、筑波大学図書館情報メディア系助教。履歴を活用した情報検索システム、子どもに対する絵本推薦システムの研究に従事。現在、情報処理学会人文科学とコンピュータ研究会主査を務める。情報処理学会、電子情報通信学会、日本教育工学会、ADHO各会員。



後藤真（国立歴史民俗博物館）

国立歴史民俗博物館准教授。2007年大阪市立大学大学院修了。博士（文学）。花園大学文化遺産学科・人間文化研究機構本部を経て現職。2003年山下記念研究賞受賞。専門は人文情報学・情報歴史学。最近では博物館・大学の人文資料の情報基盤構築とその活用を方法論とした「総合資科学」に関する研究を開始している。著書・論文：『写真経験の社会史』（共編著、岩田書院、2012年）「正倉院文書トピックマップへの知識情報の充実」、共著、『情報処理学会シンポジウム論文集』2013(4)、2013年12月など。